

明
六
雜
誌

第
二
十
二
號



- 一 知說四
- 一 夫婦有別論
- 一 政教之疑一
- 一 化學改革ノ大畧
- 一 紙幣引換懇願錄



頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ鎖々タル小冊ヲ
リト雖_凡邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌第二十二號明治七年十二月刊行

○知說四

西 周

前篇既ニ學ヲ講究スルノ方法ヲ論シタリ而テ又爰ニ輓近ノ學術ニ於
テ尤モ要領トナスヘキ方法ハ講究ノ際ニ演繹ノ法ト歸納ノ法トヲ用
フルニ意ヲ致スヘキコナリ此二法術ハ譬ヘハ富家ノ子ノ資本金ヲ費
ヤスト貧人ノ子ノ資本金ヲ蓄フルトノ差ノ如ク演繹法ハ譬ヘハ百萬
兩ノ資金アリト定メ之ヲ分配區別シ各自ノ費用ニ充ツルガ如ク至善
至高ナリト定メタル一元理ヲ演繹シテ之ヲ萬殊ニ推擴スルナリ故ニ
其元理果シテ至善ナラハ至當ヲ得ヘシト雖モ苟モ此間ニ謬ルコアラ
ハ則チ毫釐千里ニシテ百萬ノ資金モ之ヲ妄用スレハ一時ニ空乏ニ至
ルヘシ又歸納法ハ譬ヘハ一錢二錢ヲ積ミ日ニ蓄ヘ月ニ益シテ遂ニ巨
萬ノ資ヲ得ルカ如ク多少ノ事實ヲ積ミ遂ニ一貫ノ眞理ヲ得ルナリ如
此クナレハ固ヨリ差謬ヲ生スルノ理ナク且貧人モ富資ヲ得ルカ如ク

デダクシウン

インダクシウン

新タニ眞理ヲ發明スルコトアリ如此クシテ事實ヲ一貫ノ眞理ニ歸納
 シ又此眞理ヲ序テ前後本末ヲ掲ケ著ハシテ一ノ模範トナシタル者ヲ
 學ト云フ既ニ學ニ因テ眞理瞭然タル時ハ之ヲ活用シテ人間萬般ノ事
 物ニ便ナラシムルヲ術ト云フ故ニ學ノ旨趣ハ唯專ラ眞理ヲ講究スル
 ニ在テ其眞理ノ人間ニ於ケル利害得失ノ如何タルヲ論ス可ラサルナ
 リ術ハ則チ其眞理ノ在ル所ニ隨ヒ活用シテ吾人ノ爲ニ害ヲ去テ利ニ
 就キ失ニ背シテ得ニ向ハシムル者ナリ譬ヘハ今水ノ體タル其分子ノ
 微細ナルハ肉眼ノ能見ル所ニ非ルノミナラス之ヲ至精ノ顯微鏡ニ施
 スモ其狀ノ如何タルヲ知ルニ由ナシ然ルニ其事實ニ據テ之ヲ徵スレ
 ハ其能相推盪シテ下キニ就クヲ知リ其滴露トナリテ團々タルヲ知リ
 又之ヲ試驗シテ益上ニ點シ又能凝聚圓體タルヲ知ル如此ク視察經驗
 試験ノ三法ニ因テ事實ヲ一貫スルノ理ヲ求メハ水水ノ溫度ヲ保有シ
 テ散シテ蒸氣トナリ凝テ氷トナルニ至ラサルノ間ハ其體ノ圓々タル

チ推知スヘシ既ニ其體至微ニシテ圓々ナルヲ知レハ其滾轉流下ハ已
 ムヲ得サルノ效驗タルヲ知ル然ルニ此流下ノ性ニ因テ或ハ利ヲ興シ
 或ハ害ヲ生スル者亦如何トモ爲ス可ラサルナリ然レ流體動學即水理
ハイドロヂナミツリ
 術ニ於テ一タヒ之ヲ活用スル時ハ流下ノ性能水車ヲ運シ以テ百穀ノ
 利用ヲ興シ又壓迫ノ性能水技ヲ奏シ激シテ噴泉トナラシムヘシ其他
 此等凡百此性ヲ利用シテ能人間ノ利便ヲ興ス者蓋枚舉ニ暇アラス故
 ニ學ハ人ノ性ニ於テ能其智ヲ開キ術ハ人ノ性ニ於テ能其能ヲ益ス者
 ナリ然ルニ如此ク學ト術トハ其旨趣ヲ異ニスト雖レ然レ所謂科學ニ
 至テハ兩相混シテ判然區別ス可ラサル者アリ譬ヘハ化學ノ如シ大要
ケミストリ
 分解法ノ化學ハ之ヲ學ト謂フヘクアナリチカキ總合法ノ化學ハ之ヲ術ト謂フヘシ
シンテーチカル
 ト雖レ亦判然相分ツ可ラサル者アルガ如シ今爰ニハ此等精密ノ論ニ
 暇アラス唯其學術相關スル所以ヲ明カシテ足レリ而テ本論ノ主意タ
 ル凡百學術ノ相組織結構スル所以ヲ論述セムトスルニ方リ尙一二言

フヘキコアリ蓋歐洲學術ノ盛今古ニ卓越スト雖_レ顧フニ其總合統一
 ノ觀ニ至テハ今日ニ至ルマテ未タ定論アラストスアツクストコト埃胡斯德坤度諸學
 ノ見象ヲ類次シ單純ナル者ヨリ組織ナル者ニ至リ五學ノ模範ヲ立ツ
 其立論極メテ精シク其識力極メテ高シ盡セリト謂フヘシ唯其論タル
 極メテ高上ニ涉ルヲ以テ初學ニ在リ未タ遠カニ窺ヒ易カラサル者ア
 リ故ニ今唯其略相類似スル所ニ就テ之ヲ臚列シ其梗概ヲ示サムト欲
 ス是固ヨリ余カ胸臆ニ取ル所ニシテ歐洲ニ在リ定説アリト謂フニ非
 ス然ルニ今凡百學術ヲ類次シテ之カ要旨ヲ示サムト欲スルニ方リ之
 カ大綱ヲ別タサレハ着手ノ工夫ヲ欠クヲ以テ今姑ラク之ヲ別チテ三
 大綱トナス曰ク普通ノ學術曰ク物理ノ學術曰ク心理ノ學術後篇ニ至
 リ此順序ニ從テ論述セント欲ス唯如此ク大綱ヲ分ツト雖_レ問亦普通
 ノ中ニ特別ヲ附セサルコト得サル者アリ是彙類ノ便ニ依ル觀者幸ニ
 之ヲ諒セヨ

○夫婦有別論

津田眞道

夫婦有別是舜契ニ命シテ敷教ヘシムル所ノ五教ノ其一ニシテ舜契以
來四千年ノ久シキ亞細亞東方數億ノ人悉ク之ヲ遵奉シテ疑ハズ余幼
年ノ時ヨリ獨之ヲ疑テ信スルコト能ハズ疑ノ解ケザル蓋十數年之ヲ儒
者ニ質スルニ曰ク夫婦内外ノ別アリ此別ヲ正シウシテ相褻瀆セザル
ナリ或ハ曰ク他人ノ夫婦ト別アリ混淆スル無キナリ然レモ夫婦一定
他人ト相混スルコトナシ是野蠻ノ國ト雖然ラザルハナシ他人ノ妻ヲ姦
スレバ國ニ典刑アリ何ソゾ教トスルヲ埃ンヤ然レモ堯舜ノ大聖人ナ
ルモ舜堯ノ二女ヲ娶リ婦トシ恬トシテ恥ルコトヲ知ラズ當時彝倫ノ未
タ明ラカナラズ夫婦混淆スルアルコト何ソゾ疑ヲ容レンヤ然レバ則此
說是ニ似タリ然レモ余更ニ疑フ後世開化漸進夫婦既ニ別異アリ自他
混亂ノ憂無キ時ニ於テ孔孟程朱ノ徒曾テ之ヲ改正セズ只管古ヲ盲信
スルコト

余往年使ヲ奉シテ、清國京師ニ至リ始テ夫婦有別ヲ別字他人ノ夫婦ト別異アルノ義ニ非ズシテ夫婦内外ノ別アリ相褻瀆セザルノ義タルヲ知レリ上海天津北京等ノ處人口稠密街衢ヲ行クニ肩摩轂擊倫敦巴黎ト雖往來此ノ如ク雜遝スルヲ見ズ然而シテ街路上一人ノ支那婦ヲ見ズ啻然ノミナラズ舖頭亦婦女子ノ坐スルヲ見ズ蓋婦ハ室内ニ閉居シテ曾テ外人ニ接セザルナリ是夫婦男女ノ別ヲ嚴ニスル所以ナリ此風獨支那ノミナラズ所謂西域諸國皆然リ土耳其ハ突厥ナリ故ニ亦然リト云フ

抑聖人ノ此ノ如ク夫婦内外ノ別ヲ正シ分界ヲ嚴ニスル所以奈何曰ク造物主生愛ノ德人獸草木ニ及ブ過ルアリテ及ハザルナク餘アリテ足ラザルコトナシ禽獸草木生育蕃植ノ盛ナルコト論ヲ咲ス人ノ以テ生々繁殖スル所以男女相愛ノ情ニ原ク苟モ直情徑行ニ任セバ禽獸何擇ハン何ング夫婦ノ別アラシ凡聖人ノ禮ヲ制シ法ヲ創ムル大抵過餘ノ性情

チ節スル所以ニアラザルハナシ夫ノ西哲人口ノ過多ヲ憂へ婚姻ノ法
チ嚴格ニスル所以ト支那ノ聖人夫婦内外ノ別チ嚴ニスル所以ト其旨
趣大異無キノミ然レト支那人痛ク女性チ屈シ婦チ視ル婢ノ如ク之チ
室内ニ閉居セシムルハ之ヲ牢獄ニ幽囚スルニ異ナラズ其弊ヤ亦甚シ
ト謂フベシ孔孟程朱ノ大見識チ具シテ遂ニ此ニ論ナシ是支那人古ヲ
盲信スルノ弊ナリ

○政教ノ疑第一

阪谷 素

大凡物必ズ主ナカル可ラザル木ノ幹アリ家ノ主人アル如シコレ無レ
バ立コト能ハス而シテ地球上人々一同一生ノ主トスベキ者最至重至
大トス其物何ゾヤ夫レ天地ニ彌リ古今チ貫キ其道ニツ曰ク善曰ク惡
而シテ惡ハ善ニ非ルノ名ニシテ事物ノ主タルチ得ズ猶温素主トナツ
テ冷ハ特ニ温素ノ減耗ニ生ズル如シ温素ナケレバ天地ノ氣用チ爲サ
ズ善主タラザレバ人ノ道絶滅所謂ハルハリ一是也然ル時ハ又天地ニ

彌リ古今ヲ貫キ人ハ主トシテ方向ヲ定ムベキ者唯善ノミ國ハ人ヲ以テ立ツ國ノ國タル所以ノ本亦唯善ノミ然リ而シテ其善ヲ立ルハ唯信ノ厚キニアリ其信ヲ厚クセシメテ確然動カザルニ至ルハ唯政教法教ノ二ツアル而已蓋シ國ハ人ノ集リテ立ツ者ナリ故ニ國ノ立ハ人ノ立ニヨル人ハ心ヲ以テ主領トス故ニ人ノ立ハ心ノ立ニヨル心ハ意識ノ本體ニシテ萬事ニ應シ功用極テ多端ニシテ混雜迷惑神經ヲ轉倒シ易シ故ニ其主ヲ確立シテ方向目的明白ナラザル時ハ事物皆狐狸妖怪トナリ轉倒錯亂シテ禽獸ニ劣ルニ至ル主立テ方向明ナルモ之ヲ信ズル厚カラザル時ハ其主動搖シテ船ノ水ニ漂ヒ木ノ葉ノ風ニ飄ル如シ信ズル厚タレバ水火ノ中モ談笑シテ立ベシ此ニ人アリ大病ニ惱マサル苟モ信ズル所ノ醫アル死ニ至ルモ藥ニ迷ハズ信ゼザル時ハ朝夕醫ヲ換ヘ藥ヲ轉シ狼狽死ニ至ル其治スルハ僥倖ノミ是醫ハ病時心ノ主タルヲ以テ信ゼザル時ハ益ナケレバ也歐洲諸大戦名將ノ外名醫ヲ得レ

ハ闔軍勢ヲ倍スルモ亦此爲メナリ今某處ニ往ント欲スルニ其路ヲ信
ゼズンバ東ニ行ンカ西ニ行ンカ終日門前ニ立ツモ一步ヲ進ム可ラズ
苟モ目的定リ信ズル厚ケレバ鈍拙ノ者ニ銃ヲ放タシムルモ東ニ放ツ
可ノ丸決シテ南ニ轉セズ况ヤ西ニ轉ズルヲ能習熟スレバ百發百中
ニ至ル古人ノ言ニ心ニ主アレバ動カズト孔子ノ民ニ信ナキ立ズト稱
シ諸教法ノ萬殊ニシテ皆信ヲ第一トスルモ此故ナリ故ニ人トシテ方
向ナク方向アルモ信薄キ萬事萬業何ヲ以テ之ヲ世ニ立ン且コノ大本
ナル者地球上ニ一ナラザルノ處一ナラザルノ人決シテ無シ一ナラザル
無シ故ニ一ナラザル可ラズ而シテ一ナラザル時ハ人ニ非ズ國ニ非ズ
一家一ナラザル其家必ズ亂ル一國一ナラザル其國必ズ亂ル億萬人皆
億萬ノ心タル共和モ和セズ合議モ合セズ六十餘元素ノ離析セシ如ク
土崩瓦解固ヨリ當然ナリ是何ヲ以テ然ル善ナル者主タラズシテ惡ナ
ル者盛ン天理ノ公ニ發スルコソセソス消シテ人欲ノ私ニ發スルパツ

シ、ヨソ盛ソナレバハカリ然レバ則其天理ノ善ヲ主トシテ其信ヲ厚クシセ
シメ人欲ノ私ヲ閉テ億兆ノ心ヲ一ニスル者何ソ曰唯政教アル而已政
教時アリテ信ズ可ラズ於是手法教アリ以テ其心主ヲ立ツ其保護教諭
或ハ行實ヲ以シ或ハ言語ヲ以テ皆之ヲ教ヘテ善ヲ主トシ善ヲ信ゼシ
ムル而已歸スル所一本唯善而已而シテ之ヲ教フルノ方二岐々々枝ヲ
生シ數十ニ至ルモ其條理ヲ推シテ尋繹スレバ本源明白疑ベキナシ請
フ下篇ニ於テ之ヲ東西古今ノ跡ニ付キ辨別シテ正ヲ受ン

○化學改革ノ大畧

清水卯三郎

西哲ノ學術ニ於ル各其學派ニ隨テ社ヲ結ヒ彼ノ學ブ所ハ我が知ラサ
ル所ヲ補ヒ我が知ル所ハ彼ノ學バサル所ニ充テ以テ相交換シ以テ相
討論シテ而シテ其說ヲ定ム化學ノ如キモ亦又然リ數年以來ポトアシ
クソルフエート(即硫酸剝篤亞斯)ポトアシクユテエート(即沃酸剝篤亞斯)ソ
ヂクカルボナート(即炭酸曹達)等ノ名稱ヲ以テ舶載スル化學藥品アリ

余初其名ノ相反スルヲ疑ヒ或ハ羅甸ノ名トス後新書ヲ得テ始メテ其
學ノ一大變革アルヲ知ル余ガ此ノ事ヲ知ルノ遅キハ歐洲化學社中ニ
入ラサルノ過ヲトス凡一派ノ學ニハ一派ノ社アリ其社ニ入テ其說ヲ
求メサレバ新規發明ヲ得ルヲ能ハズ今其名ノ相反スル理ヲ述テ此ニ
其大略ヲ視ス蓋電氣ノ化學ニ於ケル最要トスル所ニシテ原質即元素
六十四品或ハ六十三トシ或ハ六十五トスノ如キ悉皆電氣ノ在ル有リ
テ各自孤陰子ガチアボシチア獨陽ノ別無キヲ無シ孤陰獨陽ノ別アリテ孤陰ハ獨陽ニ配
シ獨陽ハ孤陰ニ合シ以テ雜質ヲ生ズ即尋常ノ藥品ナリ然レ陰陽原質
ノ多寡ニ因リテ其名ヲ異ニス假令バ酸化鉄ハ酸素ノ多寡ニ隨テ鉄ナ鏽ビ
ト云ヒ鉄紅ペンガラト云フガ如シ然レ鉄ハ酸素ニ於テ獨陽タリ故ニ今ノ化學
ニ在リテハ鉄酸化ト云ハサルヲ得ズ此ニ其順序ヲ列ス

孤陰ノ端
 酸硫窒 フコユセ
 燐砒 コワモヂ
 硼炭 アテタコチ
 硅水黃 オイプロルパ
 水白

ルロヂレ
 ミチデグ
 ヌルノコタ
 スリラヂテラ
 ミヂチニヂ

素黃素
 素素
 素素
 素素金
 銀銀

ソリンニオ
 オニス
 モオリビニ
 オウオオ
 オウオオ
 オオオオ

紅
 ウビ錫 イ鉛
 カタコニ
 鍊亞
 マラヂセシ
 アエエクマ
 カスバリソ
 ポルケ
 獨陽

ニモヂ
 ミリバク
 ガタイリ
 コミビリ
 シ子
 ニオオ
 シオオ
 シオオ
 シオオ

銅
 オツオ
 オオケ
 鉛
 ザムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム

ムトム
 ムムトル
 スムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム
 ザムム

右ニ舉ル表ハ酸素チ孤陰ノ端トシケイシオムチ獨陽ノ端トス其各箇

質點ハ其上ニ在ル質點ニ孤陰タリ又其下ニアル質點ニ獨陽タリ譬へ

ハケイシオムハルビチオム并ニ其以上ニ獨陽タリ酸素ハ硫黃并ニ其

以下ニ孤陰タルカ如シ故ニ剝篤亞斯ハ沃酸ニ獨陽タリ沃酸ハ剝篤亞

斯ニ孤陰タリ曹達的鹽酸黃金的鹽酸ノ如キ皆其相反スル孤陰獨陽ノ

理ニ係ル水素ノ如キモ硫黃ニ於テハ獨陽タリ故ニ硫酸中ノ水素ハ底

類ナリ是ヲ以テヒドロウジン、ソルフル水素硫黃ト云フ又ヒドロウジン、コロリン、ヒドロウジン、ニトロウジン水素鹽酸水素硝酸ナト皆此ノ理ナ

リ且夫質點ノ說ノ如キ粒々之ヲ掌ニ見ルカ如シ嗟乎化學ノ熟スル目

又全牛ヲ見サラントス記シテ同好ノ未タ之ヲ知ラサル者ニ告グ

○紙幣引替懇願錄貨幣四錄ノ一

神田孝平

方今我邦紙幣ノ制未タ善美ヲ尽サ、ル者アルニ似タリ余輩竊ニ恐ル

今日一點尽サ、ル所ノ者即チ他日一點ノ病根タラントチ所以ニ固陋

ヲ願ミスシテ妄言ヲ陳シ聊カ識者ノ採擇ニ備ヘントスルナリ」所謂尽

サ、ル處ノ者トハ何ソヤ曰ク引替ノ「ナキヲ謂フナリ抑紙幣ノ質タ

ル何名義何形狀ニ拘ラス紙タルニ相違ナケレハ金銀同様ニ通用スヘ

キノ理ナシ然ルニ古今万国多ク紙幣ノ制アリテ金銀同様ニ人ノ尊信

ヲ得テ通用スルニ至ル者ハ他ナシ何時ニ限ラス正金引替ノ事自由ナ

ルヲ以テノミ」獨リ我邦方今ノ紙幣ハ否ラス初ヨリ引替ノ事ナシ引替

事ナケレハ通用セサルヘキ所存外ヨク通用スルニ至リシハ最初發行ノ際下民ノ濫惡金ニ苦ムヲ時トシテ官ヨリ嚴令ヲ以テ頒布アレハナリ當時官亦此事ノ正理ニ合セサルヲ知ラサルニハ非ラス正理ニ合セサルヲ善ク知リナカラ強テ之ヲ行ハレシハ所謂兵馬倥偬ノ間ニ在テ一時己ムヲ得サルノ權道ナリ」サレハ兵馬ノ事終ラハ速カニ權道ヲ捐テ正道ニ復リ紙幣引替ノ法ヲ設ケラルヘキコソ當然ナルニ今ニ至テ其事ナシ特ニ其事ナキノミナラス種々不急ノ工作ヲ起シ益々許多ノ紙幣ヲ發行アルハ是レ人民ノ愚ニ乘スルト云フ者ニテコヽニ至テ不義ノ境界ニ一步ヲ踏込ミタリト云ハサル可ラス之ヲ要スルニダトヒ現在差支ナク通用スレハトテ之ヲ頼ンテ永安ノ道トハ爲ス可ラサルナリ」我ツテ濫惡金流行以來ノ情勢ヲ思惟スルニ譬ハ一村ノ人民劫盜ノ爲ニ襲ハレ差向池中ノ氷上ニ立退キ懸念ナカラ一兩日ヲ過ゴス中陷没ノ變ナシトテ安心シ陸上ニ歸ラサルノミナラス益々氷上

ニ移住スルカ如シ」紙幣引替ノ事ナクイツマテモ正金同様通用セシム
レハ正金ノ次第ニ外出スルハ當然ノコナリ是レ猶ホ陸地モ氷上モ同
様ナリト云テ陸上ノ田宅ヲ異郷ノ人ニ賣却シ異郷人ノ之ヲ占領スル
ヲ措テ願ミサルカ如シ」且又國中紙幣ノ制宜シキヲ得サル間ハ外國ト
戰爭スルコトヲ得ス外國ト戰爭スレハ勝敗ニ關ハラス紙幣ノ通用止マ
リ之カ爲ニ内亂ヲ生スレハナリ故ニ内亂ノ生スルヲ恐レハ外國ト戰
爭スルコトヲ得ス外國ト戰爭スルコトヲ得サレハ外國ノ慢侮ヲ容赦セサ
ル可ラス是又氷上ノ人ハ岸上ノ人ト爭ヒ難クシテ余儀ナク其無禮ヲ
堪忍スルカ如シ」此外ニモ紙幣ノ不都合ナル廉ハイクテモアラン大抵
ハ氷上ノ譬ヲ推シテ當ラサル者アラサルナリ」之ヲ要スルニ前ニモ云
フ通り方今紙幣故障ナク通用スト雖到底永安ノ道ニ非サレハ早晚差
支ヲ生スルニ至ランコト必セリ其時ニ至リ眞貨ハ悉ク外出シテ之ニ換
フヘキ者ナクソハ恐ラクハ廢紙トナルニ至ラン仰キ願クハ君民上下

相俱ニ心ヲコ、ニ用ヒ今一層ノ深慮アリテ正金ヲ全ク尽サル中ニ早
ク引替ノ法ヲ設ケ三千余万ノ人民數百年間辛苦勉勵シテ積ム所ノ財
本ヲ一朝悉ク烏有ニ歸セシムルカ如キ慘毒ナル大禍ヲ未然ニ防禦ア
ラソトヲ吾輩之ヲ思テ杞憂ニ堪ヘス敢テ妄言ヲ陳シテ識者ニ質ス識
者幸ニ三思ヲ賜ハ、幸甚

稟 白

一代價の每号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號方先二十冊分御引受の一割引五十冊分の一割半百冊分の一割引にて差上過不足の追て筭當の上可申上候

一府下みて御望の方の町所名前御投書次第發兌毎々配達可仕遠國の府下みて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内の遞送不仕候

東京藥研堀町

賣捌所 報 知 社

明治七年三月

大坂本町四丁目

取次所 河内屋眞七

